

3 研究の目的

児童生徒の自立と社会参加を目指し、生活意欲と生活態度を育てるために、環境づくりに視点を当てた日常生活における指導の授業の在り方を明らかにする。

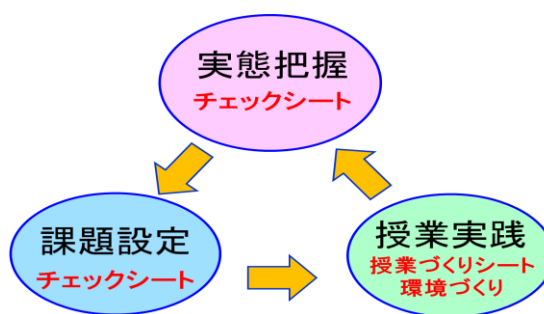
4 研究仮説

日常生活における指導において、環境づくりに視点を当てた授業づくりを行うことによって、児童生徒が「わかる」、「できる」、「かかわりあう」ようになり、主体的に活動に取り組む姿が見られるであろう。

5 研究方法

(1) 授業づくりのサイクル

児童生徒の「わかった」、「できた」という姿を引き出すため、実態把握・課題設定・授業実践のサイクル(図2)で授業づくりを行った。実態把握・課題設定では、学習指導要領を参考に本校独自に作成した、チェックシート(図3)を使用した。授業実践では、授業づくりシート(図4)を活用し、環境づくりに視点を当てた授業実践を行った。



【図2 授業づくりのサイクル】

(2) チェックシート

児童生徒の実態を客観的に把握するため、各学部で実態に応じたチェックシートを作成した。小学部では、朝の会で取り組んでいる内容を中心に、特別支援学校学習指導要領の生活科、国語科、算数科、音楽科の目標と内容を参考に作成した。チェックシートは、学級に在籍する児童生徒一人一人に対して4段階で評価を行った。チェックシートによる実態把握の結果を基に、学級の担任で話し合い、全体として伸ばしていきたい項目を重点目標として挙げ、授業づくりに取り組んだ。

朝の会 チェックリスト				
(学部 年 組 記録者:)				
生活	段階	内容	具体的行動目標	児童生徒氏名
交 際	1段階	教師と一緒に身近な人に簡単な挨拶をする。	名前を呼ばれたときに、身振りや発声などで返答することができる。 教師と一緒に、頭を下げたり、手を振ったり、握手をしったりして挨拶することができる。	
	2段階	教師の援助を受けながら、身近な人に挨拶や話をするなどのかかわりをもつ	教師や友達の名前が分かり、名前カードや相手を指さしたり、名前を呼んだりすることができる。 教師や友達に自分から挨拶をすることができる。	
	3段階	身近な人と自分とのかかわりが分かり簡単な応対などをとする。	「どうぞ」「ありがとう。」など、その場に応じた適切なやり取りができる。 教師や友達へ、学校や家庭での出来事を話すことができる。	
日 課 ・ 予 定	1段階	教師と一緒に日課に沿って行動する。	朝の歌や名前呼びなど、活動の展開に気付き、視線や表情を変えることができる。 教師の言葉掛けや身体的支援を受けながら、活動に取り組むことができる。	
	2段階	教師の援助を受けながら日課に沿って行動する。	朝の会の始まりに気付き、所定の場所に移動することができる。 朝の会の一連の活動に見通しをもち、行動することができる。	
	3段階	日常生活でおよその予定が分かり、見通しをもって行動する。	教師の話を聞き、一日のおよその予定を知り、見通しをもち、行動することができる。 1週間程度の予定が分かり、見通しをもち、行動することができる。	

【図3 チェックシート (小学部朝の会)】

(3) 授業づくりシート

児童生徒の「付きたい力」から導き出した「単元（題材）の目標」「学習活動」と「手立て（環境づくり）」を踏まえた指導計画の作成を行った。評価では、前期・中期・後期の三回に分けて行い、手立てや学習活動などを見直すことで、授業改善を図った。

学部・学年等					
付きたい力					
単元名					
単元の目標	学習活動	手立て (環境づくり)	評価		
			前期	中期	後期
〈単元全体の振り返り〉					

【図4 授業づくりシート】

(4) 環境づくりの四つの視点

本校では、児童生徒が主体的に活動するための環境全体を支援環境と捉え、「環境づくり」に視点を当てて、授業づくりを行ってきた。支援環境とは、児童生徒が主体的に活動するための環境全体のことであり、「物理的支援環境」と「人的支援環境」がある。なお、「主体的」とは全てのことを自分一人でするということではなく、他人の力を借りたり、補助具等を用いたりしながらも、できる範囲で自分の力で行ったり、自己の力を可能な限り発揮したりすることと捉えている。

この環境づくりの四つの視点は、富山大学附属特別支援学校の研究を基に、本校で昨年度まで行ってきた体育科・保健体育科での授業づくりを進める中で整理してきたものである。(表3)

【表3 環境づくりの四つの視点】

(富山大学人間発達科学部附属特別支援学校(2012)を参照して一部変更)

物理的 支援環境	① 教材・教具, 支援ツールの効果的な配置 a 動線の整理 b 配置位置, 間隔 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 100px;">どこに置くか</div>
	② 児童生徒の発達段階や障害特性に合った支援ツールの活用 a 理解を助ける b 動きを引き出す c 活動の終わりの明示 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 100px;">何をどのように用いるか</div>
人的 支援環境	③ 教師の役割 a MTとSTの役割, 連携 b 立ち位置, 動線 c 効果的な支援の仕方
	④ 児童生徒の役割 a 活動のモデル b 係の役割 c 位置, 動線 d ペア・グループ活動